

(R3. 9. 21～22)

マツノクロホシハバチの 発生状況調査（大朝日岳）

朝日山地では、平成23年9月からマツノクロホシハバチによる大朝日岳周辺のハイマツで被害が目立ちはじめました。過去には北海道でキタゴヨウの大規模な枯死被害が発生したこともあるため、朝日庄内森林生態系保全センターでは経過を見守りつつ必要な場合は捕殺を行うこととしております。

今年度は9月21日～22日にかけて、大朝日岳周辺において当センター職員3名により、食害調査と駆除作業を行いました。

調査は登山道上のハイマツを丹念に観察し、マツノクロホシハバチの発生の有無を確認、発見したら位置を確認の上、その概数を数え、その上で捕殺するという手順を進めました。



マツノクロホシハバチの幼虫



マツノクロホシハバチ捕殺作業

今年度は昨年度より1週間ほど早く調査を実施しましたが（例年とはほぼ同時期）、昨年度より発生件数とその数は少なめでした。

今後も朝日センターでは、朝日山地の貴重な生態系を保全管理するため、地道に現地での活動を継続していきます。



小朝日岳付近から望む大朝日岳



古寺山付近から望む小朝日岳



大朝日小屋から西朝日岳方面を望む



大朝日小屋から月山を望む(奥に鳥海山)

東北森林管理局
朝日庄内森林生態系保全センター